

三星雄大の生活科（第2学年）研究計画

1 本研究で目指す子ども

比較して考えることは、どの教科でも発揮される見方や考え方である。生活科で重視されている気付きは、比較することで質が高まっていく。例えば、自分の成長に気付くためには前と今の自分を比較する必要がある。WGでは、低学年における他教科等や中学年以降の各教科において育成される資質・能力との関係性を明確化することが課題に挙げられている。課題解決の過程で発揮される比較に焦点をあてて単元を開発することで、生活科の課題を解決することにつながる。さらに、生活科で重視されてきたことも達成できる。

私は、**学習対象へのかかわり方を比較し、自分の成長に気付く子ども**を目指す。具体的には、自分と専門家の学習対象へのかかわり方を比較する過程と前と今の自分の学習対象へのかかわり方を比較する過程を経て、できるようになったことや分かるようになったことに気付く姿である。

これまでの研究では、内容（9）と他の内容とを関連させて単元を構成してきた。しかし、自分の成長に気付かない子どもの姿が多く見られた。自分を学習対象とする内容（9）と身近な人々や社会及び自然を学習対象とする他の内容とでは、子どもの問いが異なる。単元の始めに「もっと～したい」等とあこがれをもち、問いの解決に向けて取り組んでも、自分の成長にかかわる問いではない。そのために成長には気付くことができない。

そこで、目指す姿を具現するために次のように授業を改善する。

まず、問いの質を変える。これまでの授業では、「もっと～したい」というあこがれを問いとしてきた。本研究では、困っていることや分からないことを表出させ、あこがれを抱く事実を提示する。そして、「自分も〇〇のようになりたい。どうしたらできるだろうか」等、自分とあこがれを抱く事実との間にずれを感じさせ、自分の変化に気付かせるための問いを設定させる。

次に、2段階の比較場面を設定する。1段階目は、自分と専門家の学習対象へのかかわり方を比較させる。こうすることで、今まで気付かなかった学習対象へのかかわり方に気付き、問いの解決に向かう。2段階目は、以前の自分と今の自分の学習対象へのかかわり方を比較させる。こうすることで、自分の成長に気付く。このようにして目指す姿を具現していく。

2 本研究で育む資質・能力

| | ①知識や技能 | ②ツール活用能力 | ③見方や考え方 | ④態度 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 生活科 | <ul style="list-style-type: none"> ○学習対象にも命があることに実感を伴って気付く ○自分の成長に気付く | <ul style="list-style-type: none"> ○ベン図 ○ウェビングマップ | <ul style="list-style-type: none"> ○試したり、予測したりしながら学習対象に直接働き掛ける ○比べて考え、共通点や相違点を見いだす考え方 ○視点を変えて学習対象をとらえる考え方 | <ul style="list-style-type: none"> ○継続的に学習対象とかかわり、学習対象を大切にしようとする ○継続的な学習対象とのかかわり通して、自分の成長に気付き、意欲と自信をもって生活しようとする |

3 主張する働き掛け

単元の導入では、学習対象との出会いを設定し、継続的に体験活動に取り組みさせる。子どもは、学習対象とのかかわりを通して、愛着をもつようになっていく。子どもは、これまでの学習において、学習対象の目に見える特徴や変化には気付いている。そして、学習対象にも自分と同じ命があることをとらえている（C0）。そのような子どもに次のように働き掛ける。

働き掛け1

困ったことや分からないことに焦点付け、あこがれを抱く事実を提示する。

問いをもたせるための働き掛けである。

子どもは、学習対象とのかかわりの中で、「〇〇がいつもと違う。どうしたらいいのだろう」等と困っている。また、「△△が大きくなれない。なぜだろう」等と自分では解決策が分からないことがある。そこで、毎朝設定している「〇〇ニュースのお時間です」において友達に伝えたいことを問う。子どもは、困っていることや分からないことを発表する。そして、他の子どもにも困ったことや分からないことがないかを問い返す。子どもはこのままでは、困っていることや分からないことを解決できない状態になる。

そこで、あこがれを抱く事実を提示する。子どもがあこがれを抱く事実とは、専門家のかかわりが結果として見える事実である。子どもは、自分との違いに驚く。驚きを感じた子どもは、「何か秘密があるはずだ。だから、△△さんのところに行って調べてきたい」と願うようになる。その後、これからどうしたいかを問い、作文シートに書かせる。すると子どもは、「ぼくも上手に育て

られるようになりたい。でもどうしたらできるのだろう」等と問いをもつ。

働き掛け2

「まねっこ活動」(専門家と一緒に日常的なかかわり方に取り組みさせる活動)を行わせ、分かったことや考えたことを問う。

問いの解決に必要な情報を収集させるための働き掛けである。

子どもに問いを解決させるためには、自分の学習対象へのかかわり方と専門家の学習対象へのかかわり方とを比較させる必要がある。専門家のかかわり方を体験を通して分かることで、問いが解決できる。日常的なかかわり方とは、子どものために特別に設定したものではなく、日々専門家がやっているものである。「まねっこ活動」を行わせる前に、どのようなことを知りたいかを学級で確認する。活動させる前に視点をはっきりさせておくことで自分のかかわり方との比較を促しやすくするためである。すると子どもは、自分のかかわり方と同じところと違うところをはっきりさせたいと発表する。

その後、原さんと一緒に日常的なかかわり方に取り組みさせると共に野菜がどのような状態のときどのようにそれぞれの仕事を行うのかを話してもらう。子どもは、「まねっこ活動」を通して、自分のかかわり方と同じところや違うところに気付く。気付いたことを作文シートに記述させる。

働き掛け3

解決方法を問い、自分と専門家の学習対象へのかかわり方の共通点や相違点を見いださせる。

問いの解決に必要な情報を判断させるための働き掛けである。

まず、課題意識を確認し、どうしたらこの課題を解決できるかを問う。子どもはこれまでの生活科の学習の経験を想起し、比べればよさそうだと考える。さらに、どのような道具を使えばよいかを問う。子どもは、これまでの学習の経験からベン図やウェビングマップを用いるとよいことに気付く。そこで、自分で決めた方法で、実行させる。子どもは、共通点や相違点に気付く。

その後、これらどのようにかかわりたいかを問い作文シートに記述させる。子どもは、共通点や相違点の中から自分の学習対象にあった方法を選択して記述する。

授業後、見いだしたかかわり方を実行する場面を設け、1週間程度試させる。

働き掛け4

学習対象を上手に育てられるようになったかを問い、物語の形式で活動を振り返らせる。

自分の成長に気付かせるための働き掛けである。

自分の成長に気付かせるためには、以前の自分と今の自分の学習対象へのかかわり方を比較させ、違いに気付かせる必要がある。まず、まず、上手に育てられるようになったかを問う。上手に育てられるようになったと感じている子どもには、理由を問う。子どもは、以前の自分と比べてできるようになったことを発表する。上手に育てられるようになっていないと感じている子どもには、「〇〇さんが上手に育てられていないと言っていますが、皆さんはどう思いますか」と投げ掛ける。子どもは、友達の行為もよく見ている。子どもは、「〇〇さんは、…を頑張っていたよ」等と、友達の頑張りを認める。認められた子どもは、自分ができるようになったことを自覚する。

その後、単元の振り返りとして物語を書くことを提案する。物語には時系列で自分と学習対象とのかかわりが描かれる。学習対象の変化、自分の行為、自分の気持ち、学習対象の気持ちを書かせる。このようにすることで、**学習対象へのかかわり方を比較し、自分の成長に気付く子ども(Cn)**になる。

4 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したCnになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。
- ③ 子どもは発揮した資質・能力を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け4を受けて、自分の成長に気付いているかを発言やつぶやき、ワークシートの記述から検証する。
- ② 働き掛け2, 3を受けて、想定した資質・能力を発揮しているかどうかを、発言やつぶやき、ワークシートの記述から検証する。
- ③ ワークシートの記述や発言、「〇〇うた」や「〇〇けんきゅうにつき」の記述から検証する。

5 年間の授業計画

- (1) 指定研究授業(7月) 「いっしょに大きく…-ぼくもわたしもおやさい名人-」(22時間)
- (2) 中間検討会(9月) 「いっしょに大きく…-ぼくもわたしも虫はかせ-」(20時間)
- (3) 初等教育研究会(2月) 「いっしょに大きく…-ぼくもわたしも生き物はかせ-」(35時間)